

銅スクラップ需給 先行き不透明感なお強い

海外銅、ギリシヤや中国の動向が左右か
為替とも

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

六月前半は五月の米自動車販売台数は前年比一・六%増の一六三・五万台、年率換算で一、七七九万台だった事や一〜三月期の米実質国内総生産（GDP）改定値は前期比年率〇・二%増から〇・七%減に下方修正された事による利上げ時期の後退観測などのプラス材料もあったが、ドイツの長期金利が一時、節目の二%に迫る水準まで急上昇したこと、国際通貨基金（IMF）は四日公表した米国に対する年次経済審査報告で、二〇一五年の米経済見通しを下方修正したこと、ギリシヤがIMFの借金を六月末まで先送りした事などのマイナス材料を受けLME銅相場はDOWN、六月十五日時点で五、八八八・五〇ドル（セツル）と月初価格より二〇〇ドルDOWNの前半締めとなった。

後半はFOMCの声明やイエレン米連邦準備理事会（FRB）議長の記者会見で、利上げを急がないことが改めて確認され、市場で好感されると思惑が買いを誘ったこと、FRBが年内に最初の利上げを始めた後はゆつくり利上げを進めると示唆した、などのプラス材料もあったが、ギリシヤがIMFに六月三十日が期限となっている一七億ドル（二、一〇〇億円）の返済が不履行なつた事、国民投票で緊縮財政にNOを突きつけた結果となった事によりデフォルトが現実味を帯びてきたことからDOWN、七月一日現在、後半スタート価格から三九ドルDOWNの五、七六〇ドル。銅建値七五万円のスタートとなった。

◆月間のドル/円レート（TTTS）
一・二五・二二↓一・二三・三九（円）

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一六・六%減の六四万五、四二七台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数（軽除く）は前年比五・四%増の二七万九、三七五台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比五・八%増の七万二、七二〇戸であった。

◆貿易関連指標

輸出
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が九・八%減の三万五、四〇〇t、スクラップが一五・二%増の三万二、五二八t。

輸入

輸入は電気銅が前年比六八・四%減の三、〇〇三t、スクラップ一・二四%増の八、一四七t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移（速報）によれば前年比九・九%減の六万二、三七〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報（推定）による銅電線出荷量は、前年比二・五%減の五万三、三〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

五月の四輪車生産台数は六四万五、四二七台で、前年同月の七七万四、一四一台に比べて二万八、七二四台（一六・六%）の減少となり、一カ月連続で前年同月を下回った。

五月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車五三万九、一七三台で一万五、八五九台（一七・七%）の減少となり、一カ月連続のマイナス。このうち普通車は三三万三、一七三台で二万八、九五九台（八・〇%）の減少、小型四輪車は一〇万二、七二六台で三万七、〇五八台（二六・五%）の減少、軽四輪車は一〇万三、二八四台で四万九、八四二台（三二・五%）の減少。

トラック九万五、四四六台で一万三、三九九台（一一・三%）の減少となり、四カ月ぶりのマイナス。このうち普通車は四万三、二二四台で四、一七九台（八・八%）の減少、小型四輪車は二万四、一五二台で二、三九二台（九・〇%）の減少。軽四輪車は二万八、〇八〇台で六、八二八台（二九・六%）の減少。

バス一万〇、八〇八台で五四四台（五・三%）の増加となり、三カ月連続プラス。このうち大型は八四八台で二七八台（四八・八%）の増加、小型は九、九六〇台で二六六台（二・七%）の増加。

五月の国内需要は三三万五、六四四台で、前年同月比七・六%の減少であった。うち乗用車二七万九、四一九台で前年同月比八・二%の減少、トラック五万五、五八五台で同五・〇%の減少、バス六四〇台で同二四・八%の増加。輸出は前年同月比一〇・〇%の減少。（実績）

【自動車販売】

六月の国内自動車販売台数（軽を除く）は二七万九、三七五台で前年比五・四%増。三カ月連続プラス。年累計では九二・一%減。うち乗用車四・六%増、貨物九・九%増、バス一九・九%増。（八面へ続く）

(四面より続く)

【住宅着工数】

・平成二十七年五月の住宅着工戸数は七万一、七二〇戸で、前年同月比で五・八%増となった。また、季節調整済年率換算値では九一・一万戸(前月比〇・二%減)となった。

・住宅着工の動向については、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、このところ前年同月比で減少が続いていたが、足下では前年同月比で三カ月連続の増加となっている。

・住宅着工については、今般の経済対策等を踏まえ、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では一六カ月ぶりの増加(前年同月比一・一%増、季節調整値の前月比では四・八%減)。

【貸家】

前年同月比では二カ月ぶりの増加(前年同月比二・八%増、季節調整値の前月比では〇・四%減)。(分譲住宅)

前年同月比では二カ月連続の増加(前年同月比一・一%増、季節調整値の前月比では八・〇%増)。(分譲マンション)

前年同月比では二カ月連続の増加(前年同月比五四・九%増)。(分譲一戸建住宅)

前年同月比では一三カ月連続の減少(前年同月比八・八%減)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比九・九%減の六万一、三七〇tで三カ月連続マイナス。内需五万〇、六九六t。一〇・三%減と七カ月連続マイナス。輸出は一万〇、六七四t。八・一%減と二カ月連続マイナス。品種別では、銅条一万八、二六〇tで七・二%減と三カ月ぶりマイナス。黄銅棒一万三、九六七tで一三・九%減と一〇カ月連続マイナス。最近の傾向として五月単月ではリーマンショック直後以来の低水準。

【銅電線出荷量】

前年比二・五%減の五万三、三〇〇t。うち、国内二・二%減、輸出が一〇・一%減。部門別では、通信五・五%増、電力〇・九%減、電気機械九・七%減、自動車一・六%減、建設電販二・六%増、その他内需二・三%増。

【輸出】電気銅輸出が前年比九・八%減の三万五、四〇〇t。銅スクラップは一五・二%増の三万一、五二八t。

【輸入】電気銅が六八・四%減の三、〇〇三t。スクラップは一・四%増の八、一四七t。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き大幅減少の一六・六%減。一方、六月の国内販売台数が前年比五・四%増。生産が一カ月連続マイナスの中、販売が三カ月連続プラス、ただ輸出が一〇%減。この販売増の流れが六月も続き生産増につながるか今後の動向に期待。

・新設住宅着工数は前年比五・八%増。季節調整済年率換算値で九一・一万戸(前月比〇・二%減)。前年比で三カ月連続プラス。季節調整済換

算では二カ月連続マイナスに転じた。

住宅着工は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が薄れており、足下では前年同月比で三カ月連続の増加となっている。今般の経済対策等を踏まえ、今後の動向に注目。

・伸銅品は三カ月連続マイナスの前年比九・九%減。輸出の悪化から堅調さが見られた銅条が、二三カ月ぶりマイナス。黄銅棒、銅管も住宅関連の低調さを受けて前月に続き減少が続いた。

今月も伸銅品生産は輸出に支えられてきた面もあり今後の輸出動向に注視。内需が急回復するとは考えにくい。住宅着工が三カ月連続にプラスだった事から今後の動向に期待したい。

・輸出は二二五、二三三円(TTM)のレンジへの大幅な円高トレンドから地金は減少。スクラップは内需の低迷を受けて大幅増加した。

・輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から減少したが、スクラップは円高を受けて上昇したとの見解。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は電気銅建値が七九〇円から七五〇円まで下落した過程で塩漬け玉が発生したが、伸銅品生産の低調に伴い発生量のトレンドは変わらない。ただ、メーカーで買止めをしているところも全体の在庫過多。

メーカー需要は自動車、住宅販売ともに前年比でプラスだったが、足元の生産が大幅減少しているとの事でまだまだ先行き不透明感が高く買い気なし。

【価格・為替予想】

今月は、中国の金融政策及び景気対策、引き続きギリシャ債務問題に左右される。

中国の金融および景気対策に関しては、当局は金融緩和及び利下げなどの政策を行っていているもの、現状にそれが景気に寄与しているとは考えにくい。故に、いわゆる大規模な景気対策が必要だが、現政権ではスムーズの行う可能性は低いのではないかと。

ギリシャの債務問題に関しては、IMFへの借金が六月三十日の時点で返済されることはなかった。EUからの融資を受けるための国民投票でもNOを突きつけており、デフォルトする可能性は高い。IMFが七月十四日に催促状を送付、七月二十八日に返済がなければ正式にデフォルトされる予定。

それらを踏まえた七月の銅価格は、中国当局が景気対策に関しての何かしらの表明をし、ギリシャがIMFへの返済をした場合、六月高値の六、一〇〇ドルを予測。いずれの場合も五、七〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合もう一段安値の五、五〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて年内説が台頭するも、その後は穏やかなものになるとの認識が台頭、好調な米経済指標やギリシャ債務問題での一段のユーロ安から六月中はドル高円高傾向がづくのではないかと。

今後、上値はギリシャが七月二十八日に向かって正式にデフォルトの道を行んだ場合、一一一円台を予測。下値はギリシャの債務返済と米経済指標の好調が進み利上げ観測が出た場合は二二五円台。銅建値に関しては七一〇〇八一〇円程度と予測。